

「十夜法要のお知らせ」



令和3年11月

◇両讚寺十夜法要

令和三年

十一月十三日 (土曜日)

午後六時 開始

場所 両讚寺

○御回向承り日程

・十一月十一日 午後二時より

・十一月十二日 終日

・十一月十三日 終日

(十一日は午前諸用の為、右記時間より承っております。十二日、十三日は終日承っております)

◇恵心寺十夜法要

令和三年

十一月三日 (文化の日)

午後七時半 開始

場所 恵心寺



両讚寺
恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

五月から寺報にて「お仏壇で

のお経の唱え方」を解説してあります(あくまで両讚寺・恵心寺の宗派である浄土宗のお話

になります。他宗はこの限りではないことご注意ください)。

今まで、仏間に入る時の心の持ちよう、お線香やローソクの作法をお伝えして来ましたが、

さて、お仏壇にはお花をお供えますが、生花というのは日本独特の文化と言われます。

インドでは、仏様に華をお供

えする時、花のみを取って花籠に盛って供えたり、花でリング

状に環を作ってお供えをして

いました。中国から伝わったお供えの方法では、花瓶の口に花首だけ

が乗っている状態でお供えすることが多かったようです。

平安時代になって、「銀の花

瓶に高々と花を調える」と文献

にあるように、日本にて徐々に

花を高く生ける形式に変わってきたようです。

それは、花を高く生け、自立させることで、花が生きる姿を表したものと思われれます。

線香を真ん中に、ローソクを

右に、花を左にお供えすること

を三具足(みつぐそく)と言

います。昔は床の間の飾りとして、仏

の軸を掛け、手前に三具足を置

くことが行われて来ましたが、それが今のお仏壇の元と言

われています。お仏壇にお花を生ける時は、

心を込めて格調高く生けるこ

とができれば良いのですが、生

花などの知識が無い場合、一番基本的な形として、ローソクの

炎の形に似せて生けると良い

と言われています。他に、留意することとして、

バラの花のような棘のある花

は避けるということと、水仙

や彼岸花、鈴蘭のような毒をもつ花も避けた方が良くも昔から言われています。

密は毒がありますが、その姿が青い蓮の華に似ている

とのことから、お供えに使用

しても良いとされています。

昔、お花をお供えする時、

先ず仏様やご先祖様の方へ

向けてお供えし、お念仏を唱

えてから、こちらの方に向け

直すと良いと教わりました。

本来は仏様やご先祖様の為

に生けるものであります。

その気持を受け取って、今

度はご先祖様が私達の方に

功德を回し向けて下さって

いる。

という理解でお仏壇のお

花を生けていますと、やはり自分の行いは巡り巡って自

分に帰ってくるものだとい

うことが、些細な日常でも感

じられることが出来そうです。